

大津町 第7次大津町振興総合計画策定等業務

議事録

会 議： 第2回大津町振興総合計画策定審議会

日 時： 2025年5月30日(金) 13:30-15:30

場 所： 大津町役場3階 会議室 302AB

出席者 【委員】

- (敬称略)：
- ・ 三宮 美香（大津町議会 副議長）
 - ・ 佐藤 真二（大津町議会 議会運営委員長）
 - ・ 時松 智弘（大津町議会 総務常任委員長）
 - ・ 山本 富二夫（大津町議会 文教厚生常任委員長）
 - ・ 大村 裕一郎（大津町議会 経済建設常任委員長）
 - ・ 黄 在南（熊本県立大学 名誉教授）
 - ・ 井寺 美穂（熊本県立大学 総合管理学部准教授）
 - ・ 津留 武芳（大津町教育委員会 教育長職務代理者）
 - ・ 徳永 誠也（大津町社会教育委員）
 - ・ 荒木 伸弥（NPO 法人クラブおおづ 副理事長）
 - ・ 松本 光行（大津町防災士連絡協議会 会長）
 - ・ 備海 伸隆（大津町認可保育園園長会 会長）
 - ・ 藤本 義隆（大津町 PTA 連絡協議会 会長）（欠席）
 - ・ 吉田 和信（大津町民生委員児童委員協議会 会長）
 - ・ 松木 雄一郎（大津町社会福祉協議会 事務局長）
 - ・ 矢野 文男（大津町老人クラブ連合会 会長）
 - ・ 山下 和貴（肥後おおづ観光協会 理事長）（欠席）
 - ・ 古庄 寿治（JA 菊池大津中央支所 担当理事）
 - ・ 池田 雅一（大津町企業連絡協議会 副会長）
 - ・ 高木 希三子（大津町商工会 副会長）
 - ・ 松本 幸祐（大津町区長会 会長）
 - ・ 吉岡 久美子（大津町女性の会）（欠席）
 - ・ 松岡 さくら（東熊本青年会議所 地域活性グループ委員）
 - ・ 古場 達也（熊本銀行大津支店 支店長）
 - ・ 川添 英男（肥後銀行大津支店 支店長）
 - ・ 錦戸 亨（熊本県県北広域本部 審議員兼振興課長）
 - ・ 嶋田 純（公募委員）
 - ・ 桑原 正浩（公募委員）
 - ・ 西野 勝（公募委員）

【大津町】

- 木村総務部長、伊藤総務統括専門官
- 事務局：総合政策課

【トーマツ】

- 井上 翔太（現地）
- 眞鍋 麻紀（現地）
- 山本 南（Web）

議 題：

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - ① 基礎調査報告
 - ② その他
4. 閉会

資 料：

1. 第 7 次大津町振興総合計画策定のための基礎調査報告書（概要版）
2. 町民アンケート結果報告書_
3. 中高生アンケート集計報告書
4. 移住者クロス集計報告書
5. 基礎調査_社会情勢・現計画整理版

議事録

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - ① 基礎調査報告
 - ◇ 事務局より「資料 1 第 7 次大津町振興総合計画策定のための基礎調査報告書（概要版）」を用いて説明。
 - 資料 1 の 32 ページの耕作放棄地の解消率 212.9%は、目標値を達成しているか確認したい。（委員）
 - 耕作放棄地は解消され目標を達成しています。（事務局）
 - 国・県・ベンチマークとの比較分析がマクロすぎるように感じる。分析の根拠を考える必要がある。例えば、資料 1 の 39 ページでファミリーサポートの利用件数はコロナの影響であるためミクロ分析も必要になると考える。（委員）
 - 現段階での基礎調査は数値比較から推察できることを記載しています。今後は各業務担当課に目標や課題をヒアリングのうえ第 7 次振興総合計画に反映します。（事務局）
 - 調査を「人口」、「産業・経済」、「子育て・教育」、「医療・福祉」、「生活環境」、「行政」の 6 分野で整理しているが、6 分野の関係性

はどう整理しているか確認したい。人口は、産業・経済と並列するものではなく「産業・経済」や「子育て・教育」の施策の効果により対策が進むものだと考える。各分野の関係性を明記すると分かりやすいと思う。（委員）

- 資料 1 の 19 ページに 6 分野を記載していますが、第 7 次振興総合計画は「産業・経済」、「子育て・教育」、「医療・福祉」、「生活環境」、「行政」の 5 分野で整理したいと考えています。人口は各分野に影響があるため別項目として整理する予定です。（事務局）
- 人口は社会的人口動態と自然的人口動態に分類できる。今回の施策はどちらに影響があるかがわかるとよいと考える。（委員）
- 資料 1 の 10 ページの町民アンケートの満足度と重要度は、地域によって課題が異なると考える。地域別で分析していただきたい。（委員）
- 資料 2 の 75 ページ以降で 7 小学校区別の満足度・重要度の分析結果を公表しています。振興総合計画策定に関わらず毎年アンケートを実施し町の施策に反映しています。（事務局）
- 資料 2 の 1 ページの町民アンケートの年齢構成は 50 代以上の回答割合が多く若い世代の回答が少ない。振興総合計画は将来のまちづくりの方針であるため若い世代の意見を聞くべきである。（委員）
- 町民アンケートは年齢や住所を考慮して抽出した 18 歳以上の町内在住者 3000 人に送付しています。10 代は 18～19 歳のみであるため回答率に偏りが生じています。若い世代の意見を参考にするため中高生アンケート調査を実施しました。今後も若い世代の意見を取り入れる方法を検討していきます。（事務局）
- 資料 1 の 54 ページで人口 1 万人当たりのごみ総排出量は減少する必要があるが、大津町のリサイクル率が低いとの指摘は社会実相に合っていないと考える。家庭ごみは微量である。荻田町はサーマルリサイクルを実施しており、環境省の一般廃棄物処理実態調査にはサーマルリサイクルが含まれているためリサイクル率が高い数値になっていると思われる。同様の処理方法で比較すべきであり、サーマルリサイクルを除いた結果が達成可能なごみの総排出量削減率を記載したほうがよいと考える。（委員）
- 出典を確認します。（トーマツ）
- 一般廃棄物処理実態調査に記載されている以外にもさまざまなリサイクル方法があるため、ベンチマークとの比較も重要だが同様の処理方法を行っている地域と比較いただきたい。（委員）

- 第 4 期地域福祉計画と地域福祉活動計画を策定した際に、市民の福祉ニーズを第 7 次振興総合計画に反映すると掲げているため第 7 次振興総合計画の策定に参考としていただきたい。次に、資料 1 の 45 ページのとおり医療・介護従事者不足のため人材育成に取り組んでいただきたい。医療・介護分野は外国人労働者に協力いただいているため外国人にやさしいまちづくりに取り組んでいただきたい。また、福祉サービスも低迷しているため評価・継続のため尽力いただきたい。さらに、基礎調査結果にコミュニティが希薄化していることが顕著に表れている。コミュニティを再構築するために地域福祉の活動について推進していく必要がある。最後に、単身世帯や高齢者が増えているため施策に反映し福祉と協力していただきたい。判断能力が低い人などをサポートできる仕組みづくりを町全体で行っていききたい。（委員）
- 振興総合計画は大津町の最上位の計画であるため、個別計画と内容の齟齬がないように研修等を行いながら反映していきます。また、資料 1 の 16 ページで地域コミュニティ充実は移住者の重要度が低くなっているためこのような状況も踏まえてコミュニティの再構築や改善を検討する必要があると考えています。（事務局）
- 基礎調査全体的に回答の整合性が取れていない箇所がある。資料 1 の中高生アンケートは前向き回答が見受けられるが、資料 3 の将来の居住意向は大津町に住みたい割合が非常に低く、交通に不便などマイナスな回答が多い。整合性が取れていない回答から課題を見つけていく必要がある。（委員）
- 調査を分析のうえ第 7 次振興総合計画に反映していきます。（事務局）
- こども基本法により幅広い年代のこどもから意見を聴取することになっているが、中高生アンケート以外に小学生や未満児から意見を聴取する予定はあるか確認したい。（委員）
- 現時点では予定しておりませんが、担当課が実施している調査等を確認し意見を聴取のうえ第 7 次振興総合計画に反映していきます。（事務局）
- こども基本法の観点から取り組んでいただきたい。（委員）
- 検討していきます。（事務局）
- 大津町は高校が 3 つあり近隣地域に比べて教育環境が充実しているが、高校受験には校区制限がある。中学生のいる家庭は、高校受験を見据えて熊本市内の高校が校区内になる合志市や菊陽町

に引っ越すことが多い。大津町の場合、熊本市内の高校は校区外受験になるため 13%のみの採用となることが足かせになっていると考える。（委員）

- 資料 4 の移住者の属性を確認したい。（委員）
- 町民アンケートにて年齢を回答いただいているため判別することは可能です。（トーマツ）
- 資料 4 の分析は居住年数で区切って行っています。（事務局）
- 承知した。属性別に結果が変わるのか確認したい。（委員）
- 第 7 次振興総合計画にて移住定住施策を重要視するため分析した認識である。（会長）
- 町民アンケートから居住年数が 5 年未満の方の意見を抜粋して現状把握を行いました。（トーマツ）
- 資料 1 の 32 ページで耕作放棄地の解消率が異常な達成率となっているが、転用も入っているか確認したい。（委員）
- 業務担当課に照会し第 3 回審議会資料送付時に回答します。（事務局）
- 分析結果から転用も入っていると推測され、農業人口確保のために耕作放棄地の解消率と農畜産物の販売促進会の開催数の指標を設定していると考えるが、農業振興になるか判断が難しいため指標を見直していただきたい。（委員）
- 指標は第 6 次振興総合計画を提示していますので、第 7 期振興総合計画策定では指標を見直します。（事務局）
- 町民アンケートの回収率は中高生アンケートと比較して低い。回収率向上にむけた対策を検討しているか確認したい。（委員）
- 現在、町民アンケートへの協力依頼を送付した後、さらに協力を依頼するためのハガキを追送しています。回収率は向上してきていますが、更なる対応を検討していきます。（事務局）
- ベンチマーク都市は異なる基準で選定された都市が混在している。全てのベンチマーク都市を押しなべて同様に評価することが適切なのか確認したい。（委員）
- 様々な切り口から比較する対象を選定しましたが、ご指摘のとおり検討します。（トーマツ）
- 大津町は熊本地域の地下水の一大涵養地域である。地下水を涵養するうえでの土地利用は農業が貢献している。地下水が減らないように施策を検討いただきたい。大津・菊陽・西原地域の農地保全にむけて現状を把握いただき、農地が減らない方向に第 7 次振興総

合計画にて施策を展開いただきたいと考える。基礎調査結果から大津町の農業は伸びしろのある産業であると感じた。涵養効果の高い農地は特に保全施策を第 7 次振興総合計画にて展開してほしい。また、町民アンケートの未来のまちにふさわしいキーワードとして、「自然」や「快適さ」が上位を占めているが、計画的な土地利用と農地保全等の関連する施策に不満を持っている層もいるため町民のニーズを施策に反映していただきたい。施策の展開には都市計画マスタープランとのリンクも必要である。菊陽町は土地ごとの利用目的が明確であり計画的な土地利用がなされているが、大津町は土地ごとの利用目的が曖昧で転用が進んでおり計画的な土地利用でないと感じる。農地保全の方向性はこの際に確認していただきたい。農地保全は、農業振興だけではなく大津町の地下水を守ることに資するということも踏まえて検討してほしい。（委員）

- 地下水は町民から不安な声をいただいており第 7 次振興総合計画にも記載する方向で検討します。土地利用は、都市計画マスタープランで検討されていますが、振興総合計画とも連携していきます。（事務局）
- 資料 1 の 10 ページで重要度が高く満足度が低い項目は、今後重点的に取り組んでいく必要がある。担当課含め相談してほしい。（会長）
- 町民アンケートで渋滞課題が多く上がっている。資料 5 の 132 ページの主要道路の交通量推移では渋滞が多いように感じない。朝夕の渋滞を計測いただかないと町民ニーズと一致しない。（委員）
- 資料 5 はオープンデータから資料を抜粋しています。交通渋滞対策は町としても県や近隣市町村、企業と対策を進めています。渋滞対策も第 7 次振興総合計画に反映する予定です。（事務局）
- 町民アンケートの自由記述で渋滞解消やソーラーパネルの規制など個別施策への課題がわかる。移住者の意見では、交通の利便性や自然を移住理由に挙げている方が多いように感じた。未来のまちにふさわしいキーワードも快適さ、安心、自然との調和などバランスの取れたワードが多いように感じた。（会長）
- 町民アンケートの自由記述で空港アクセス鉄道の中間駅に関する言及が少なかった。空港アクセス鉄道の中間駅に関する新聞報道が出る前に町民アンケートを回収しているため、急激な情勢変化を反映できていない可能性がある。地下水保全や農業を含めた土地利用、都市計画マスタープランでの中間駅についての議論など新たな情報が

発信されている。多角的な視点もありながら町民の意見も変わってくるため、追加で意見を聞く企画が必要だと考える。（委員）

- 空港アクセス鉄道は振興総合計画以外で説明会が実施される予定です。第 7 次振興総合計画では住民懇談会を開催し可能な限り町民の意見を取り入れていきます。（事務局）
- 都度町民の意見を審議会にて紹介いただけるか確認したい。（会長）
- 都度紹介し第 7 次振興総合計画に反映します。（事務局）
- 空港アクセス鉄道の中間駅周辺の都市開発は、JA としては危機感があり、近隣住民も賛成している方は少ないと認識している。しっかりと町民の意見を聞いて進める必要がある。また、農地を守ろうとしても守れない。農地を守るためには、農業従事者を守る必要がある。農地の保全は営農継続の観点で取組を行っていく必要がある。昔は農地の転用基準が厳しかったが、TSMC 進出後は農地転用が進んでいる。行政として対策を考えていただきたい。大津町役場の職員に大津町以外から通勤している方がいるが、可能な限り役場の職員には大津町に住んでほしい。（委員）
- 本日いただいたご意見は業務担当課と共有して検討を進めていただきたい。（会長）
- これまでの振興総合計画は総花的なものであったが、ここ数年の大津町の変化を踏まえて、重点的に取り組むべき内容を示す計画としていきたい。（委員）
- いただいたご意見を参考に進めていきます。（事務局）
- 次回は基本構想素案を確認いただきながらご意見いただきたい。（会長）

② その他

- ✧ 事務局から第 3 回策定審議会は 7 月 31 日（木）午後に開催予定との連絡を行った。（事務局）

4. 閉会

以上